

# 文芸研ニュース

2020年5月10日

—NO. 154—

発行 文芸教育研究協議会

編集 文芸研事務局

目次		
巻頭 上西委員長より	1	
各地からの報告	7	
事務局通信	28	



この悔しさは、来年夏に！

## 苦渋の選択

### —山口大会1年延期

上西信夫(文芸研委員長)

#### ■ドキュメント2020年3月～4月

3月、新型コロナウイルス感染拡大の状況が徐々に深刻化する中で、まず検討課題になったのは5月春の実践研をどうするかということでした。大阪市・神戸市の感染者数が増加する中で、新幹線のぞみ号停車駅で代替地を模索しました。広島、京都、岡山での可能性を追求しましたが、実際の要請で会場・ホテル確保がクリアできませんでした。(3・30 発文書\*註1)

5月7日緊急非常事態宣言が出されるのですが、「3密」回避や移動のリスク、会員の安全確保の見地から50～70名規模の学習会そのものが持てない状況となりました。そこで4月4日に発した「実践研中止」文書(\*註2、併せて「青年学校中止」となりました。また同文書で山口大会実施の有無も3案(①8月実施 ②秋・冬延期 ③1年延期)で提起し、各サークルの意見を集約しました。当初は実施・中止の最終判断を7月初旬、その後6月上旬としていましたが、その後休校要請期限のGW明けまでとしましたが、現地の要請もあり4月中旬の決断としました。

各サークル・全国委員の意見は、圧倒的に1年延期案でした。この間民教連加盟の他団体の動向も聞きましたが、中止の判断をする団体が増加していきました。現地中国ブロックの山口東・広島・福山・牛窓サークルも1年延期案支持で、4月14日發文書（＊註3）のように山口大会は、2020年8月中止、2021年夏に延期としました。

1967年第1回沼津大会から綿々と続いてきました文芸研大会史上初めての中止・延期となります。その歴史を中断することは、心苦しい限りで苦渋の選択でした。しかし、全国大会を啓蒙集会と位置づけ、サークル員以外の多くの一般参加者を集め、文芸研の理論と実践を広げるという趣旨からいえば、今夏・秋の実施は厳しいものがあります。今後新型コロナウイルス感染拡大・終息状況にもありますが、来年の山口大会プレ集会として大会に代わる地域集会を、各地で追求してください。

## ■2020年12月実践研（神戸市）で〈実践編〉全レポート検討

今後2020年12月実践研のこと、2021年5月実践研のこと、延期する2021年山口大会のこと、2022年大会のことなど検討しなければなりません。メールでのやり取りが中心となりますが、事務局に意見をあげていただきたいと思います。（メールアドレス変更があった場合は速やかに事務局に連絡をしてください。名簿登録のア

ドレスで送信できない会員が何人かいます。また、2020年度会員名簿作成時期にあたり、必ずサークル代表者・事務局・もしくは連絡窓口のメールアドレス掲載をお願いします。）

枚方サークルの尽力で、5月実践研で報告・検討を予定していましたレポート（実践編）が送付されてきました。忙しい日常の中、例年より多くのレポートが期限を守って提出されたことは大きな前進でした。レポーターはもとより、レポーターを支える各サークルの協力に感謝申し上げます。今年12月実践研での検討となりますので、散佚することのないように各サークル・個人で検討をお願いします。

また、この間枚方サークルでは、オンライン学習会（ZOOM会議）の実施など、今の情勢に負けない取り組みを始めました。（枚方文芸研フェイスブック参照）感染拡大の状況にに応じて、例会の持ち方も工夫して取り組んでいきます。決して文芸研運動のすべてが休止することのない取り組みをお願いします。特に休校中とはいえ職場同僚へのはたらきかけが今の時期大切です。「授業ハンドブック」シリーズや「文芸教育」誌を話題にしながら、同僚に話し込んでいく機会を多く持ちましょう。

## ■このような時こそ、LINE以上「文芸教育」誌未満の「文芸研ニュース」での交流を

「文芸研ニュース」153号は、本来5月実践研で配付さ

れる予定のものでした。中止も見越して事務局・ニュース担当の松山幸路さんが、レポート発送に同封するという案を提案し、会員の手元に行き渡ったというわけです。さらに8月大会時にも例年「文芸研ニュース」を配付していました。今年では中止で配付できませんのでどうするか松山さんから相談がありました。今の状況に応じた「文芸研ニュース」を発行したいという前向きな相談に、各サークルの様子（子ども・学校・地域）や会員の情報を交流するための「文芸研ニュース」をネットで配信し、会員に拡散してもらってはどうかと提案しましたところ、即賛同を得ることができました。結果として、編集担当の松山さんの印刷・発送の労力と経費の削減にもなります。LINE以上「文芸教育」誌未満の内容で、できるだけ多くのサークル・会員からの「ニュース」掲載の情報の交流の場として機能することを願っています。ニュース編集担当の松山さんに([hoke01runkomi23@yahoo.co.jp](mailto:hoke01runkomi23@yahoo.co.jp))、全サークルから①現状②今後の見通し（特に夏休み短縮）の原稿を送ってください。

## 資料

### \*註1

## 2020春の実践研について

2020/03/20

上西信夫

3月19日、大阪府・兵庫県知事からオーバーシユートの発生を回避するため、阪神地域の往来自粛要請が出されました。つきましては2020春の実践研の実施について次のように段階的に考えます。（判断の期日は4月初旬の始業式の頃とします）

(1) 爆発的な拡大が起らない現在の状態が続く場合は、予定通り実施。（当然のことながら体調の悪い会員は出席を控える。交流会は中止）

(2) 休校要請がでたり、阪神地域の往来自粛要請が解けない場合は他地域で実施。（順次打診中。候補地が無理な場合2案は却下）

候補地①広島 ②京都 ③岡山 : 50人規模の会場を5月9・10日の2日間確保できるか（会場費は後日実践研会計より支出します）／ホテル15室ほど確保できるか

(3) 全国的に感染が爆発的に拡大した（オーバーシユートの発生）場合は中止。

・各サークルで4月上旬に送付されてくるレポートを検討し、気づいた点をレポーターに伝え。

・特に検討してほしい点があれば、各サークル（代表者が事務局に送信／会員名簿のメ

ールアドレスが変更した場合は事務局・山中尊に必ず連絡のこと」と上西・山中吾に送信（上西 M.a 変更：[nobu.unishi@outlook.jp](mailto:nobu.unishi@outlook.jp)）

・山口大会現地実行委員会からの提案（実施細案）も郵便・メールで送付。質問・意見は各サークルと現地でき取り取りをする。全体に係るものはHPに掲載。

・例年実践研中に行っていた「大会要項」（または封筒）のやり取りができないので、山口大会現地実行委員会（清田・石田）に必要な枚数を連絡する。（現地実行委員会）は動員目標と郵送料の上限を提示する）

・「大会冊子」原稿依頼もメール・郵便でのやり取りとする。現地実行委員会指定の形式で、締め切り期日を厳守する。）

（4）第17期3回青年学校（5月2・3日、横浜・東京で実施予定）も4月初旬に実践研に準じて実施か中止の判断をする。

・爆発的な拡大が起こらない現状が続く場合は、予定通り実施する。（当然のことながら体調の悪い17期生・オブザーバーは出席を控える）

・全国的に感染が爆発的に拡大した（オーバーシュートの発生）場合は中止。

\*註2

**至急**サークル代表者・全国委員の皆様へ 2020/04/04

上西信夫

新型コロナウイルス拡大で想定外の事態がいくつか起こっています。

皆様の意見を集約して状況に応じた方針を提起したいと思っていますので、以下の点についてご意見をお願いします。

### （1）5月実践研の実施の是非

首都圏・阪神地域・愛知・福岡の拡大は収まりそうにありません。例年通りの神戸開催はリスクを伴い、参加を躊躇する会員もいるかと思えます。広島案、京都案等の可能性も追求しましたが難航しています。3月20日発の文書では①予定通り実施②開催地を変更③中止してメール等でのやり取りの3案を提案しました。今後の状況を考えると、③案にせざるを得ないと考えます。サークルで学習会が可能なところはレポート検討会を開いたり、LINEでのグループ通信やZOOMでの会議機能を活用してレポート検討をお願いします。その結果をレポートに必ずお知らせください。

実践研が開催されなければ、実践研での「大会要項」のやり取りができません。下記の（2）案・（3）案となることも考えて、現地は「大会要項」印刷をストップしてもらうってください。「大会要項」に新型コロナウイルス拡大状況によっては、中止や内容

変更がある旨、それをHPにてお知らせすることを明記してください。「大会要項」4Pの「▼中止の場合」でのアナウンス文の修正)

下記(1)案になった場合、各サークルごとへの発送となりますから、必要枚数を現地(清田・石田)に報告してください。現地は動員目標数と送料の限度額を各サークルに提示してください。また、「大会冊子」原稿の依頼も今回はメール・郵便でのやり取りになります。

春実践研代表者会議で提案する予定だった「山口大会実施細案」も各サークルに郵便・メールで送ってください。

## (2)大会そのものの実施の是非

現地、各サークルは、大会を実施することを前提に準備を進めてください。それと同時に最悪のケース―第55回山口大会実施の是非も想定しておかなければならない課題です。

8月初めまで終息する見込みがない場合、(1)予定通り実施(2)11月21・22(・23)日に延期(3)1年延期の3案が考えられます。

▼(1)案の場合、終息していなければ参加者数が少なくなることは予想できます。また、土・日開催とはいえ、この間の休校措置で授業時数確保のため夏休み中の授業が実施された場合、レポーター・司会者・公開授業シンポジスト…の参加が保障できるのかの問題があります。レポーター・司会者・シンポジスト…の皆さんは現時点での夏休み授業の各地の見通しを出し

てください。現時点で最終判断は1か月前の7月初旬を考えられています。

▼(3)案もすでに大きな行事等が組まれて参加ができないことが考えられます。会場が確保できるのかの問題もあります。あまさんの講演が可能かどうかの確認も必要です。あまさんが事前に来られないとわかった場合は、1日目の全体会を縮小しなければなりません。その場合は参加費の値下げも検討する必要があります。

▼(3)案の場合、現地は会場が今年と同様に確保できるか、あまさんが受けてくださるかの問題があります。2021年開催地との調整が必要です。

できれば(1)案を熱望しますが、あらゆることを想定して準備を進めたいと考えます。民教連加盟の他団体や全国教研等の動向も注視し、新しい情報が入り次第連絡ください。

現地は昨年の鹿児島大会で採用したイベント保険は、今回のコロナウィルス拡大に伴う損失補填も可能かどうか、鹿児島文芸研・北山さんの意見も聞いてください。

何より現地山口県が、200人から300人規模の集会を中止要請することがないかどうかの情報が大事です。現地はその収集をお願いします。

以上2点を早急にサークルで議論をし、事務局・山中尊生さんに意見をお寄せください。意見集約の締め切りを4月12日とします。

なお、5月2・3日に横浜・東京で予定していました第17期青年学校3回目の学習会は、首都圏の新型コロナウイルス拡大のため中止としました。

**\*註3**

**重要サークル代表者・全国委員の皆様 2020/04/14**

委員長 上西信夫

■新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第55回文芸研山口大会の開催をどうするか、各サークル・全国委員から意見を寄せていただきました。

- ① 今年8月実施…………… 0サークル
- ② 今年11月・冬休みに延期… 2サークル
- ③ 今年中止・1年延期………… 17サークル
- ④ 無回答(14日現在)………… 7サークル

全国委員:①案 0名 ②案 0名 ③案 10名 ④ 1名

という結果でした。現地中国ブロックの山口東・広島・福山・牛窓サークルの意見も今年中止・1年延期案で、全国の多くのサークルと合わせて多数意見でした。よって、今年の文芸研大会は中止とし、2021年夏に延期することとします。開催地は山口です。

1967年第1回沼津大会から綿々と続いてきました文芸

研大会史上初めての中止・延期となります。全国大会を啓蒙集会と位置づけ、サークル員以外の多くの一般参加者を集め、文芸研の理論と実践を広げるといふ趣旨からいえば、今夏・秋の実施は厳しいものがあります。今後新型コロナウイルス感染拡大・終息状況にもよりますが、来年の山口大会プレ集会として大会に代わる地域集會を、各地で追求してください。

■1年延期に伴い、いくつかの確認・検討が必要です。

**(1) 今年に準じてすべてスライドさせるか**

- ① 期日7月31日(土)・8月1日(日) ▼ 要検討
- ② 会場確保・交流会会場 ▼ ①との関係で現地が確認

- ③ あまんきみこ講演(鼎談) ▼ 阿萬さんに再依頼(上西が窓口)、固辞された場

合は再検討

- ④ 公開授業(授業者・シンポジスト・司会) ▼ 要検討・再依頼

- ⑤ 分科会・入門講座報告者・司会者 ▼ 今年と同じ報告者・司会者 要確認

- ⑥ 現地企画 ▼ 要確認・再依頼(現地)

- ⑦ 大会テーマ・基調提案 ▼ 要検討

- ⑧ 「大会要項」 ▼ 再依頼

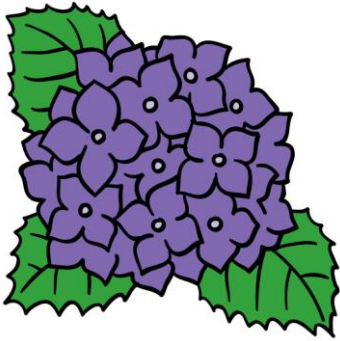
**(2) 実践研の内容** ※今年12月までに終息していなければ来年5月に実施

⑨ 2020年12月実践研(12月26・27日／神戸市)・・・2020年5月実践研でできなかった分科会実践編・入門講座全レポートの検討／光村新教材の分析／代表者会議／(25日18時から編集委員会)

⑩ 2021年5月実践研(5月8・9日または15・16日／神戸市)・・・2020年12月に実施できなかったときレポート検討／代表者会議

(3)第56回(2022年／関西・四国ブロック)・57回(2023年／関東ブロック)大会開催地／56回大会レポート等決定

\*上記(1)(2)(3)について意見のある会員は、事務局・山中尊生さんまでお願いします。



急な執筆ありがとうございます！

大阪文芸研枚方サークル 松山幸路

このデータ版文芸研ニュースの発行については、上西先生の言われる通りで、LINEにも流しましたが、以上のような経緯がありました。そのために、この混乱の中、全国のサークルから執筆者を立てていただき、ありがとうございます。

私自身、この混乱と転勤のタイミングがぶつかりました。四月中旬、転勤した学校に電話がありました。二月末に突然別れないといけなくなった子が、私の転勤先の電話番号を調べ、電話をしてきたのでした。口下手な子ですが、この言葉だけは、強く聞こえました。

「先生、なんで転勤したん？」

もう六年生ですから、先生に転勤があることは理解していますが、おそらく、最後の三月を共に過ごせなかったこと、離任式も中止になり、もう会うことや一言でも話すことすら奪われたことに対する、心の持って行き場の無さがあるのだと思います。

そんな中、次々と届くニュース原稿に目を通していると、一つ一つが重いものです。寄せられた各地の現状、執筆者それぞれのドラマは、別の場所でありながら、どこかつながっています。

そんなある日、新聞の「声」欄に希望を見つけました。子どもって、やっぱりすごいなと。思わずスマホでパシャッとやりました。

## ホットケーキにのって空をとぶ

小学生 ト部 遥香

(茨城県 8)

新がたコロナウィルスのせいで学校がお休みです。そこでわたしは、新しいあそびを考えました。頭の中でお話を作ることです。

一から作るのはむずかしいので、前に読んだお話のキャラクターとして、その中に入ります。この間は「やかまし村」シリーズのリースになりました。ホットケーキにのってスウェーデンの空をとんでみました。頭の中のことなので、すぐ

にぼうけんに出かけられるところがいいです。ゲームをするよりも楽しいです。

ただ一つさんねなのは、このあそびをしていると、家ぞくには私がぼーっとしてるように見えることです。この前も楽しくあそんでいたのにお母さんに「ぐあいでもわるいの？」と言われてしまいました。いつまでお休みがつづくかわかりませんが、わたしはこれからも自分で楽しくあそべる方ほうを考えてがんばりたいです。

新型コロナウイルスに対して、マイナスなことばかりが世界を覆っています。飲食店の状況に合わせた工夫を、ニュースを通じて見ます。でも、子どもも負けていません。この条件をどう

プラスに考えるか、持って行くか。そういった現状が持つ可能性を、もしかしたら子どもが教えてくれるかもしれません。これから、分散登校や学校が再開された時、共に暮らす子ども達から学ぶことがあるかもしれません。非常時には役に立たなさそうなのが、人間を救うことがあるのだということ、を、八才の子どもが教えてくれたような気がしました。

来年度に延期された山口大会。文芸の力を参加者の皆さんと確かめられる大会になればと願わずにいられません。全会や分科会はもちろん、交流会でも事務局の二人、山中尊生、松山が漫才を久々にするかもしれません。ここ数年様々な事情があり、できませんでした。

今でもあの一言を、相手の表情もセットで思い出すことができます。それは、二〇一六年夏の青森大会。全体会会場、青森県総合社会教育センターの外。昼休み。夜の全体交流会本番に向けて、ネタ合わせ。会場付近の人目を避けるために駐輪場の傍で練習していたせいか、地域住民に怪しまれながら敢行したネタ合わせ。私は事件がすぐそこまで迫っていることも知らずに、山中さんの繰り出すボケに健気にツッコミを入れていました。

よし、後は全体交流会。ラスト一本の練習を終えた、その時でした。私が耳を疑う言葉を、ボケ担当の山中さんから聞いたのは。

「そういえば、俺、全体交流会、欠席やったんや。」  
これだけ、青森市民に怪しまれながらネタ合わせをして、

ラスト一本を終えてこれでいけるといふ段階になってから、今まで積み上げてきたものを全てひっくり返す行為に出たのです。何のために、今必死に練習をやっていたのか…。

結局は、交流会でこの話ができて笑いを取れたことと、全体会の講師であった詩人・アーサー・ビナードさんとの絡み（松山家がどれぐらい米を食べるかという話）でも笑いが取れたので、一安心でした。

来年度こそ山口大会を必ず実現し、それぞれの力、個性を集めよう。

普段、文芸研ニュース編集の立場のため、基本的にここには顔を出さないで、書くとなったら張り切って色々とお喋りしてしまいました。今回、こんな状況なので、笑いも大切に取り切っていました。

この後、執筆者の皆様が綴ってくれたものを掲載しています。こんなにも悲しく、こんなにも人間の強さ、あたたかさを感じられるドラマが、ここにはあります。それでは、山口からどうぞ！



## 『山口に灯をともし大会へ』

山口東サークル・清田和幸

「ええ！！！！！！！！！！」

職員室の隣にある校長室から、教頭二人の大きな叫び声。二人同時に声を上げ、その声が卒業に向けた事務仕事に追われて残っていた私たちのいる職員室にも響き渡りました。学年末がそこまで来ていた2月末。そこから急転直下の休校が始まり、子どもたちと六年間をゆっくり振り返ることもできないまま、卒業の日を迎えました。

山口県では、スタートの日にちに違いはあれど、急な休校措置はどの市町でも一律に行われ、4月も多少の違いはありましたが、ほとんどの小、中、高等学校で休校措置が続けられました。（感染した方が全くいない市町でも。）

私たち山口東サークルのメンバーは、少人数ながらもコツコツと全国大会の準備を進めていました。けれど、このコロナ禍の中、大会を行う会場の方や協力してくださる方々、上西委員長をはじめとする文芸研の皆さんとの話の中でも、「この状況はいつまで続くのか?」、「プレ集会は開けるのか?」、「この状況で、参加者は集まるのか?」、「そもそも開催できるのか?」などなど、準備を進めながらも山口大会開催に対する不安は、日に日に募っていきました。

そんな中でも、山口市では國田真美さんが自分の学校で

山口大会を宣伝しながら、若い教師たちに文芸研の授業や教材に対する見方・考え方・取り組み方を広めてくれました。また、下松市の酒井大輔さんは自分の学校で二度の学習会を開催。二回とも10名近くの参加者を集め、文芸研を高らかにアピールしてくれました。防府市の大田晃司さんはプレ集会の案内の発送を一手に引き受け、プレ集会延期（のちに中止となります）の際も、県内各地への案内の発送を行ってくれました。岩国の石田哲也さんは、大会事務局を引き受け、私も含めたサークル員一人一人に的確な指示を出しながら、各会場との折衝や大会要項の編集を手掛けてくれました。

また、今回の文化行事には、かつての山口文芸研代表であられた林道彦さんが中心になって進めておられる会による『箏曲組歌』（室町時代に大内氏が、応仁の乱で荒廃した京の都から文化人を呼び、都で行われていた踊りと歌、箏や笛による合奏を山口でおこなった催し。）を行う予定でした。山口に代々受け継がれてきた「文化の灯」を現代にも灯し続けようとされている姿と、「文芸研の灯」を山口の地で灯し続けるサークル員の姿が重なります。

今回、山口大会は延期になってしまいましたが、うれしいことに、プレ集会や山口大会に早くから参加を希望しておられる方々がおられました。どの方も私たち山口のサークル員とは面識のない方々です。この方々が文芸研に寄せる期待に、胸を張って応えたいと思っています。

「五里霧中」ともいえるコロナウイルス感染の中ですが、決してあきらめることなく、来る山口大会に向けて、県内各地で文芸研の灯、希望の灯、人と人とのつながりの灯をともしながら、サークル員が一丸となって、団結してがんばってまいります。

## こんな時だからこそ

青森・津軽サークル・秋元 須美子

4月16日、2回目の緊急事態宣言を受け、私の勤務する小学校では21日から5月6日まで休校することになりました。1回目の長い休業措置がやっと終わって、新しい学級の子ども達と顔を合わせ、さあこれからという時でした。子ども達に伝えると、「えーっ!」「つまらない」「いやだ」という声。28日の分散登校日までがんばろう、とみんなを励まして2回目の休校へ。今回は子どもたちだけでなく私たちも三密を避けるため、できるだけ在宅勤務をするように、ということになりました。（1回目、私たちは通常勤務でした。）

思い返してみると、1回目の緊急事態宣言はあまりにも唐突なものでした。2月27日の夜に突然の発表があり、明けた28日、朝からバタバタと休業中の課題を準備し、できる分のテストをし（7枚も!）、子どもたちに休業する意

## 子どもと私の2月27日

東京サークル 石山惠美

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 高等部1年担任

(この時は千葉県立豊学校 中学部2年でした。)

味を説明し…。頭の中を整理する時間も余裕もなく休校となりました。次に子どもたち全員と顔を合わせたのは、約1か月後の修了式の日。クラス替えをひかえた子どもたちにとつて、この日が最後の一日になりました。修了式後に転校する子がいましたので、短い時間をなんとかやりくりして簡単なお別れ会をしました。今年1年共に過ごした子どもたちと、あまりにもあつけない最後。今まで当たり前に過ごしていた日常がかけがえのないものだったと改めて感じ、あれもしたかった、こんなことを話せばよかったと悔やまれることばかりでした。でも「このクラスで、このメンバーで過ごせてよかった」という子どもたちの言葉に救われる思いがしました。

5月7日には学校が再開されます。しかし、先が見えない状況に変わりはありません。限られた時間で授業を進めていかなければなりません。学校は学習を進めることが優先され、じっくり考えたり、仲間を思いやったりという余裕がなくなるのではないかと心配されます。そんな今だからこそ、私は始まったばかりの『スイミー』の授業をしつかりやりたいと考えています。子どもたちは、当たり前だった日常が一瞬にして奪われることの悲しさや絶望に心から同化するることができるでしょうし、本当の平和をとるもどすまでのスイミーの姿は、これからの生き方に大きな希望を与えてくれるものとなるでしょう。サークルの仲間にもなかなか会えずにいますが、さまざまな方法を探りながらつながっていききたいと思います。

「卒業生を送る会ができなくなるなんていやだ！」安倍首相から出された突然の休校要請を聞いた時に、真っ先に思ったことでした。その日まで卒業生を送る会に向けて、子どもたちとともに作り上げてきた2年生のパフォーマンス。「それを誰にも見せずに終わるなんて、悲しすぎる」そう思いながら翌日出勤しました。私の心の叫びが届いたのか、その日の午後には急ぎよ送る会を行うことになりました。今年は3年生の先生方のものまねをコンセプトとし、ほぼ生徒たちのアイデアで構成されました。みんなよく特徴をとらえ、台詞がなくてもその先生だとわかる演出が見事でした。予想どおり、会場は温かい笑いの渦に包まれました。

司会の女子生徒はまだ幼さが残る生徒ですが、その子が練習や打ち合わせもほとんどなく、いきなり本番のような状態で、しかも急な変更にも対応して、司会を務める姿に胸がじーんと熱くなりました。

その生徒が明日から休校という最後の日、自分の荷物の中から1枚の絵を出して「これ文集の表紙になった絵なの。先

生にあげる」と言って私にくれました。その時は、まだこんなに長い時間会えないことになるなんて思ってもいませんでした。

この長い長いお休みは、戸惑いも大きく、子どもたちの学習の機会や友達との時間を奪うものでした。ですが、せめて家族とゆっくり話をしながら食事をする機会が増えたり、自分と向き合う時間をもてたりする機会になっていたらいいなと思います。また学校にとっても在り方を考えるよい機会なのかもしれないと思いました。

現在は3グループの輪番で出勤しながら、子どもたちに見える日を行っています。



## 私の2. 28と今

千葉松戸サークル曾根成子

年度末突然の一斉休通知からの修了式。私にとっては、31年間の担任生活のあっけない幕切れでした。担任していた3年生とは、予定していた授業も、転校する子どもへの餞も、断ち切られた時間となりました。そんな中で、幸いにも計画していた文集が完成。学級で読み合い、お互いを認め合うことは叶いませんでしたが、それぞれの成長の足跡を発見し、自信をもって4年生に進級してほしいと願って学年を終えました。

現在、私は同じ職場で専科担当の短時間勤務職員として新学期を迎えています。転勤してきた若い仲間と子どもの情報を共有しつつ新年度準備を始めましたが、先が見えない中で、教育課程を計画しても次々と変更を求められる毎日に、職員皆が日々悩みつつ、探りつつの毎日です。

千葉も行政の決定が曖昧であり、週末に市の方針が出されることが繰り返されています。それに伴い校長会も臨時臨時で開かれていくことになり、対応に苦慮している所です。また、近隣市町村によって休校中の児童・職員双方への対応に差が生まれていることは、今までには、あまり、なかったことです。

この混乱の中で、子どもの学習の権利の保障は大変難しい

というのが実感です。しかし、私の学校で確認したことは、①今は、命が無事であることを最優先に考える。（児童も教師も）②課題は出すが、家庭の有り様が違うので無理は要求しない。③休校中の児童の預かりや学童への援助は臨機応変に行っていく。④感染者が出た場合のプライバシーは必ず守る。⑤保護者からの相談には随時応える。⑥休校解除に向けての準備を可能な限り進めるです。先週は2日間に分けて、担任の家庭訪問を援助しました。担任と話す子どもそして保護者のほっとした笑顔が心に残ります。手探りの毎日ですが、学校が子ども達にとって「来てよかった。」と思える場所であるように今できることに取り組んでいます。

## 急な休校・出口の見えない状況を

### 問い直す機会に

千葉文芸研松戸サークル・秋山亮介

2月27日（木）の安部首相の休校要請を報道によって知り、私の学校では、3月3日（月）より休校となりました。ほとんどの学年で最後の単元を積み残し、次の学年に引き継ぐこととなりました。最後の日、各学級で終わっている単元・テストの枚数が違うことから、進んでいる学級に進度を合わせることで、学習の遅れていたうちのクラスはテス

トの1日となりました。子どもたちがあまりにもかわいそうだったので、午後の時間は生活科の「かざぐるまづくり」で終わりました。もつと事前に知っていられれば、最後の日への準備や学年間の差もなるべくないように調整できたのですが、休校の要請があまりにも突然。1年生の最後の月、国語の学習の仕上げとしての「お手がみ」の授業、次の新入生が入ってくることにへの期待感も、お兄さんお姉さんになるという気持ちも宙ぶらりんのまま終わってしまいました。

卒業式は体育館で行われました。感染者の多い柏市の学校などは保護者が体育館には入れず、映像配信で見るというところもあったそうですが、私の学校は保護者2名までと制限はかけられましたが、保護者の前で卒業式を行うことができました。卒業生が多いので、一人ひとりに証書授与を行うことを優先した結果、歌・呼びかけはカットという判断でした。私立に進学する子も多い学校です。ので、本来であれば、ゆっくりと別れに向かって三学期を送るはず。6年担任のやりきらない思いも聞きました。

新学期となり私は再び1年担任となりました。始業式のあと、すぐに非常事態宣言が出たため、新学期は2日間登校の後、7日から再び休校となりました。入学式は9クラスの新入生ということで、密集を避けるため3クラスずつ3回入学式を行いました。とはいえ、各クラス2〜4人ずつコロナの感染防止のための欠席者がいました。その子たちは、欠席扱いとはせず出停として処理をしました。東京に通う保護者が

多い学校にも関わらず、欠席者が少なかったのは意外でしたが、それほど新1年生の家庭にとって入学式が大切であるということでもあります。非常事態宣言が出されてすぐだったので、市の対応も二転三転しました。そのたびに、教務の先生と1年担任で話し合いながらの準備は大変でした。前日、1年生担任は10時まで残って準備をしていました。入学式は簡素なものでしたが、今まで、「例年通りに」行ってきたものが削ぎ落とされ、本当に大切なことのみで行いました。私としては良い入学式でもあったように思えます。

今、どの学校も休校が終わった時にどのように教育課程を進めるのか、どの行事を行うのかを話し合っているかと思えます。その中で逆に見えてきたことは、子どもたちにとって本当に必要なことが何かということです。登校が再開した時にどの活動を選択するかということを考えることが、今は目の前にいない子どもたちのことを考えることとなっています。

松戸サークルは辻先生の国語の教室も例会も行うことができますが、オンラインでは、他のサークルの方も参加しやすいというメリットもあります。東京の小松先生も参加してくださいそうです。

政治の不誠実さを報道で知るたびに、怒りを感じます。そのしわ寄せがきて、教育現場は右往左往しています。早くこの騒ぎが収まり、子どもたちの元気な声の響きわたる学校に戻ってほしいと願うばかりです。

## 子どもたちの心を守るために

相模サークル・庄司法子

勤務校は、二月二十七日に、翌日からの臨時休校を決めました。私立小学校として独自の判断でした。神奈川県で新型コロナウイルスの患者が出たという報道から一か月半、不安な毎日でした。最初は三月七日再開予定でしたが、現在に至っています。

卒業式は規模を縮小して実施。入学式、始業式はいまだできていません。子どもたちにまったく会えない状態が続いています。教職員はリモートワーク中です。出勤する場合は原則週一回という条件つきです。度重なる会議も、リモートです。しかし、学校の機能を維持するために、数日の出勤をしている教職員もいるのが現実です。保護者向けには、「臨時お知らせサイト」というのを作り、随時メール配信をしてその情報が見られるようにしています。

子どもたちの学習の場を維持するために、現在行っているのは、二つの方法です。二週間に一回、学習教材を送っています。もう一つは、新しい取り組みです。Google Classroom というのを使って、オンライン授業をしています。ライブ授業はしませんが、ここに授業に関する動画や学習プリントを入れています。ほとんどの教員が初めての取り組みです。授業動画作りは想像以上に工夫と時間が必要で、

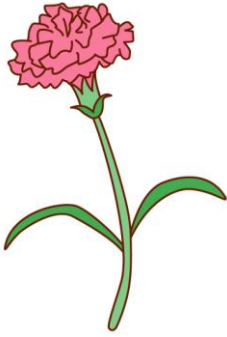
しかもどうしても発信側のひとりよがりになってしまいがちです。そこで、教科別に会議を重ねて研修を積み、まさに試行錯誤の毎日です。

一方、保護者は、学習教材があっても子ども任せにはできないので、その時間の確保、気分転換のさせ方、もろもろ大きな負担です。そうになると、これに付随して、学習塾が求められます。オンライン授業が完璧に整っている塾に預けている家庭もある、ということ。特に、六年生の差し迫った受験への不安は、何をもってしてもぬぐいられません。

保護者もさまざまな状況に置かれています。お子さんが多い、勤務を続けなければならない、家計に打撃をうけている、闘病中・介護中諸々、その家庭によって、大なり小なり対処していかなければならない課題をかかえていらつしやいます。それは教職員も同じで、頭を悩ませるところです。

保護者も私たち教職員も、「子どもたちの心を守りたい」気持ちには常と同じだと思っています。五月三週目にはオンライン面談も実施します。さまざまな取り組みがすべてつながり合ってプラスの循環を生み、子どもたちの心を保つに違いないと信じて、できうる限りのことをしています。

以上



## 京都綴喜サークルの現状と今後について

京都綴喜サークル・辻村 禎夫

現在の勤務状況が三交代制です。勤務に行かない日は在宅勤務です。午前中は、預かり教室で子どもを預かっています。五月三十一日までです。

預かり教室では、喚起も十分に行い、マスクを全員着用し、万全を尽くしています。感染リスクもありますが、来ている子どもたちは、運動場で遊ぶ時間もあり、家にいる子どもより遙かによい過ごし方をしているのではないかと思います。

再開に向けて、少人数学級の必要性を感じています。また、子どもどうしの交流ができないので、ホワイトボードの活用や書いてもらったものをこちらで公開するなど、音を出すことなく考えを交流できる方法を模索しています。話し合いとはいえませんが。アクリル板などの、話ができる仕切りがあればよいのですが、行政が用意するのを待ってもいられません。

今、二年生を担当しているのですが、算数は専ら同じ学年の先生に任せ、国語の教材研究をしています。年間計画も立て直しているところです。重点教材をはっきりさせ、その重点教材で、大事なところを押さえるようにしていけば、削減できるところもあると思います。教材研究をすれば、何を大

事にするかが明確に見え、効率よく授業が行えるのではないかと実感し始めています。

在宅勤務では、家庭学習の準備もしているのですが、これが一番困っています。当該学年の学習内容を課題に入れるというのですが、かなり限界を感じています。学年が低くなればなるほどそうなのではないでしょうか。国語においては、漢字、音読などを考えています。また、ワークシートも作ろうと思っています。ワークシートだけでは、不十分ですが、もちろん短い時間でも、予習してきたことの授業は行います。そして、それでも不十分なところは、他の作品で補っていくるのではないかと考えています。まだまだ未熟ですが、文芸研で学んだことが今だからこそ活かせるような気がしています。

サークルは、開けていませんが、オンラインを活用して、サークルや学習会を開くべく、準備を進めています。資料はメールで送り、各自で印刷してもらえれば、できると思いますが。また、教育会館に自分が行けば、ホワイトボードや黒板を使いながらできるので、試してみたいと思います。

困難な時ですが、今だからこそピンチをチャンスに変えて、新しい形に挑戦したいと思っています。

## 日頃の姿とシンクロする、コロナの影響」

大阪文芸研豊中サークル 朝輝千明

### ・学校のように

大阪はニュースでも色々とり上げられていますが、教員はおろか教育委員会も何も聞いていない中、いきなりニュースで休校に伴う措置がおりてきます。

だから結局何もできないまま…ということが多いです。時差を感じます。

また組合が相当動いて、交渉してくれています。休校が始まってすぐ「在宅勤務の承認」、「子育て職員の職免」など実現しています。

逆に箕面市は市長が維新の会で、もともとトップダウンが激しく、いち早くオンライン授業が始まりました。ですが実情は現場丸投げで、得意な先生が自分で動画を製作したり、アクセスが殺到して動かなかったり…と不公平感やトラブルがあるそうです。

私の職場はもともとのおんびりしていて、危機感も薄いです。4月上旬に校長から在宅勤務の推奨が出た次の日、ほぼみんな出勤して、しかも一部屋に集まり課題プリントのホッチキスをしていました。

「日頃忙しいから、時間のある今のうちに」と思ったからだと思います。

校長がもう一度召集し、「できるだけ在宅勤務してほしい」

と言って、だいぶん出勤は減りました。今までの忙しさや、真面目さから「家にいること」に違和感があったのかもしれない。教員の日頃の働き方を考えさせられました。コロナウイルスは見えず、科学的なこともいまいちゃわかっていないのでトップから言われないうちになかなか日常の行動を変えるのはむずかしいのかもしれない。

ただ「課題作成より、今は家にいることが大切」という判断は、本当は各々ができる方がよいに決まっています。その点で文芸研が言っている「ものの見方・考え方」を教師自身も身につけることが大切だと思います。

#### ・例会と工夫

「LINEグループ電話」を利用し、サークル員5人で学習会を2時間ほど行いました。教材文と、一人でした教材分析を他の方の自宅に郵送しました。

もちろん会って学習した方がよいですが、手元に共通のプリントがあることでとてもスムーズに楽しく学習できました（かなりオススメです）。会えなくても複数で教材分析すること、とても深まり、面白く、サークルの大切さを感じました。

「コロナの影響がおさまっても、家庭的に外出が難しい、残業でサークルの時間に間に合わない時なども活用して、無理なくサークルに参加できる人が増えるね」と、みんなであう

しい発見ができました。

## コロナ休校の現状

大阪文芸研枚方サークル 奥葉子

大阪・吹田です。この原稿を読む頃、世の中がどうなっているのか検討も尽きません。1月に武漢のニュースが流れ、クルーズ船の映像を観ていた時は対岸の火事状態でした。自分の予測する力のなさを思い知らされますが、限られた条件の中で工夫を凝らしたお話をしたいと思います。

卒業式は45分程度という制約の中、代表の卒業証書授与と交歓の言葉の一部省略バージョンでマスクのまま歌も歌いました。新任で来られた先生が作詞作曲された歌でした。入場の仕方などをメール配信し、当日朝も体育館の写真に矢印を入れた資料で確認して、一度も練習していないのに立派に入場しました。序盤から思わず涙が出ました。

我が子の小学校の入学式はわずか15分。親子が向き合っていて、職員がぐるりと会場を囲む形で間隔をとり、最後に『パプリカ』の歌と踊りのプレゼントがありました。

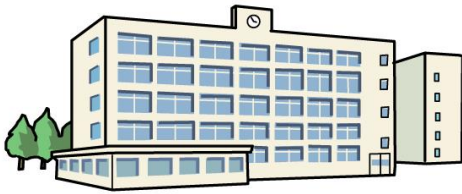
時間が無い中、制約の多い中で何が大事なのか考えさせられた式でした。

さて残念ながら学校では、1学期の行事の中止が次々に決まりました。参観・懇談、個人懇談、スポーツテスト、遠足、

田植え、児童会祭り、臨海学習……。削減の一边倒で、予定の人数はクリア出来るかも知れません。単元は終わるかも知れませんが、それだけが学校で大切なことなんだろうか。子ども達の気持ちを満たす方向はないものかとまだまだ考える1年になりそうです。

もう一つ辛かったことは職場に新しくこられた方々のことです。出逢った時からマスク姿で、こちらも余裕もなく、歓送迎会も開かれないうままです。中には大学出たての3名もいて、卒業式もなくなり、別れの飲み会も出来ず、大変な社会人のスタートになった彼らに、何も教えられず、何も伝えられないままに接触を減らすためのテレワークに入りました。ウイルスが奪うのは体の健康だけでなく、集団生活を基本とする人間の社会生活そのものなのだと痛感しました。

そんな中でもなんとかもがいて、枚方サークルではZOOM会議とLINEのビデオ通話を行いました。やっぱりみんな話をすると深まります、元氣が出ます、頑張れます。今後は「国語の教室」をオンラインで開催して困っている新任の方々の力になり、子ども達との出逢いをサポートなどもしなければと願っています。



## 正常性バイアスがかかっていないだろうか

高知文芸研 畠中 義雄  
(香南市立野市小学校 通級による指導担当教員)

「正常性バイアス」とは、「自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価したりしてしまう人の特性のこと」であり、「正常化の偏見」ともいうそうです。(「ウィキペディア」より引用)

新型コロナウイルスが感染拡大し始めた頃、私には、正常性バイアスがかかっていました。

その頃流布していた誤った情報のせいもあったでしょうが、どれだけの感染力や致死率を持っているか正確な情報がないにも関わらず、二月は三朝温泉、安芸の宮島、羽合温泉へ、三月は有馬温泉へ、それぞれ一泊二日の旅行に出かけていたのです。

その後、日本でも世界でも感染が拡大し、事態がどんどん深刻になるに至って、事の重大さと、己の考えの浅はかさとして行動の愚かさに気付くこととなりました。

そうして迎えた新年度。四月二日(木)の午後の職員会で七日(火)からのウイルス対策が話し合われた時、ご家庭で児童の体温チェックを必ずしていただき、健康チェックカードに記録して提出して頂くこと、記入がない場合は職員室で検温することが確認されました。ところが、発熱が認められ

た時は、保健室で休ませるという提案でした。私は、すぐにご家庭に迎えに来て頂くことと、迎えが来るまでの間は、校舎とは別棟で現在は使用されていない、市の子育て支援センターで隔離して安静にしてもらい、換気を十分にし、二メートル以上離れて教員が見守ることを進言しました。そして、保健所に相談することも。

また、ご家庭には検温を義務付けていながら、教職員に対しては要請する程度で終わっていたので、「先ず随より始めよ」で我々こそ率先して検温を行うべきではと進言しました。

その後、始業式・入学式が無事行われたものの、新年度一回目の臨時休業の通知。本校は、十三日(月)～二十四日(金)までの休業となり、どうしてもご家庭で安全に過ごせるよう見守れる大人がいらないご家庭に限って、児童を学校で見守る、つまり、授業はしないが八時十五分から十五時の間、三校時ぶんの学習と、DVD鑑賞、読書、運動が各一時間の計六時間、児童を見守ることとなりました。

この見守りは、二十七日(月)から給食も提供されるようになり、来週の十一日(月)まで続きます。ここでまた、杞憂で終われば良いのですが、言わずには居れなかったのがDVD鑑賞での座席です。画面が見やすいようにとの思いからでしょうが、テレビを中心にして弧を描くように座っているクラスが見受けられたのです。隣り合わせた児童同士の間隔は五十センチメートルもありません。そのクラスを見守っていた教員に二メートル離すべきではと投げかけ、改善が見ら

れなかったもので、仕方なく管理職にも知らせたが、いまだに「密」の状態が続いています。

私を含めて、教員には「正常性バイアス」がかかっている人が多いように思えてなりません。それかなり強く。私が危惧しているのは、災害の種類は違うものの、東日本震災の時の大川小学校の例です。教員が教え子たちを死へと導いてしまうこと、引きずり込んでしまうことがないよう、更に気を引き締めたいと思います。

## 福山市の臨時休校の状況

福山サークル・藤井和壽

### ○学校では

4月12日夜休校の連絡が入る。翌13日に自宅学習のための「学習等計画表」の準備、14日に「表」を配布。4月15日から5月6日までの休校に入る。

「計画表」は、ほぼ全教科分を1日で仕上げて準備した。教師が準備するのではなく、児童に計画を立てさせた学校もあったと聞く。福山市の教育長が条件整備なしでイエナプランを強引に進め、それを中心的に推進してきた学校では、そのような取り組みがあった。児童の「主体的」を重んじているように見えるが、学年始め、児童・家庭の条件を考慮しない丸投げではないかと危惧する声も聞く。

雇用形態が厳しい保護者には、急な対応ができないため放課後子ども教室の預かり時間内に迎えができないといった相談もあった。

また、市教委からの指示が二転三転、その上詳しい調査を短期間に報告するよう求めるなど、現場が混乱した。在宅勤務も急であった。16日に在宅勤務の連絡が入り、20日から実施された。出勤回数は、学校によって週1・週2・週4日と差が生じた。必要な情報が共有されないまま在宅勤務が始まった。

広島県知事が、支給される10万円を県職(教職員を含む)から強制的に取り上げるとの発表に対して、議会・県民から大きな批判があり22日に撤回したことは全国版のニュースになった。現場の県職員からは言いにくい雰囲気があった。休業中、後補充の先生には収入がないことなど表面化しにくい、放っておけない問題も多々ある。

### ○サークル活動

毎月開いていた学習会は3月までできたが、4月は休会とした。

送られてきた大会レポートは、会員に振り分け、各自で検討するようにした。落ち着いてきたら、それを持ち寄って学習会に活かすよう計画している。もし12月の実践研ができない場合は、各自検討した書き込んだレポートを報告者に届けるようにしたいと考えている。



り組んでいく予定である。

## 福山市の臨時休校の状況2

### (休校延長後の状況)

福山サークル・藤井和壽

#### 1 教育委員会

(1) 「5月7日 福山市教育委員会HP」より

4月28日に、〈4月15日から5月6日までの臨時休校を5月31日まで延長すること〉を決定した。引き続き〈休業期間中は、家庭学習を基本とし、児童生徒(保護者)の選択による自由登校による学習すること〉にした。

(2) 「4月30日 福山市教育委員会からの保護者向けの

## お願い文」より

「現在、企業が提供するクラウドサービスを活用し、健康観察や遠隔学習支援ができる準備を進めています。5月初旬には、御家庭のパソコン、タブレット、スマートフォンなどから使用していただけます。設定が終わり次第、各校から、使用方法などをお知らせします。御家庭のICT環境の状況により、使用が困難な場合は、学校にご相談ください。なお、国は今年度中に児童生徒に1人1台のタブレットを整備する方向を示しており、本市は国の補助制度を活用した整備を考えています。」

## 2 家庭学習

### (1) 家庭学習計画表 学習プリント

・計画表は、担任が作ることが多いが、高学年は児童に作らせるところが増えた。

・学習プリントを担当がつくるケースが多いが、延長後は、学習内容も家庭に任せる傾向が強くなっている。

### (2) 安否確認

・A小学校では、家庭学習計画表と1週間分の学習課題プリントを5月7日～9日の3日間の内都合がい時間には保護者が学校に取りに行く。次回は5月21・22日。

合わせて安否確認をする。

・C小学校では、担任が家計訪問して、安否確認と計画表学習プリントを渡す。

## 3 自由登校

A小学校では、1～3年 4年～6年の2グループに分け、週2回各2時間半の時間内で自由登校。参加者は多くない。教室で自主勉強あるいは運動場で運動をする。

## 4 在宅勤務

A小学校 週1回

B小学校 週2回が基本（電車通勤者週1回のみ出勤、介助者出勤なし）。

出勤日には職員時差出勤。

D小学校

学年主任からの「休校に伴い多忙だ」という主旨のメールを受け取った新採の先生が、在宅勤務日であったが、「気を利かせて」学校に行くと、管理職から職務専念義務違反として年休を取らされたということがあった。

## 5 オンライン授業

・「グーグル・クラスルーム」のやり方を5月13日までには教えるという報告があった。

・学校にもタブレットは1学級分しかなく、教室への持ち出しはできなかったのが実情で、オンラインによる授業のハードルは高いのではないか。

## 6 その他

・教育委員会から来た指示をもとに職場で準備した直後に準備したこととは違う新しい指示が出た。指示があいまいであったり、2転3転したりで、準備したことが無駄

になったという報告が多くあった。

・再開に備えた準備については、シラバスの作り変えなどが話題になっている。

## 「コロナウイルス」でかわる??&

### 「コロナウイルス」の影で・・・

広島文芸研 広島サークル 砂畠 祐子

「そんな所で卓球するな！家でプレイステーションをしてる！」

多くの人がテレビやインターネットなどで見たと思いますが、イタリアのバリー市長の言葉です。コロナウイルスの感染拡大を防ぐと、イタリアでは外出禁止措置をとり、住民が散歩していないかと市長自らが市内を見回った時のことです。

普通は、「家でゲームばかりするな、外で遊べ。」というところですが、《条件》次第で真反対になることもあるんだなあと改めて思いました。

昨年3月に、自己都合で仕事を辞めてからは、国会中継や報道番組などを見ることが多く、この1月から「桜を見る会」の追求が続けられるかと期待していたら、あつという間

に、コロナウイルス関連のことばかりです。

コロナウイルスによって、色々なことが変わっていく感じ  
です。

● いきなり全国一斉休校依頼（影響は多方面に。放課後児童クラブは3密状態。）

● 仕事は、テレワーク（情報、家に持ち帰り！？）

● オンライン会議（セキュリティ大丈夫？）

● オンライン授業（約35人で双方向授業。低学年には無理だな・・・）

● 9月入学案（学校だけの問題じゃないから、諸方面から多々意見が。しかし、3か月程度でその準備ができるのか。とても大きな変化となるので、現場の負担は尋常なものではないと予想できます。ただ、6月から授業が始まったとしても、子ども達、学校職員、保護者への負担は相当なものになるとも予測できます。この冬にまた感染の問題が起きるかもしれないし・・・新聞によりますと、明治期の大学は9月始まりだったが、徴兵制との関わりで4月入学に変わっていったとか。）等々

ウイルス感染拡大という《条件》で、世界のこれまでの常識がひっくり返される状態です。

実は、4月15日の朝日新聞で、世界規模の感染症の流行

の度に社会の変化が起きているということを知りました。

（世界史で習ったけど忘れてた？？先生ごめんなさい！）

例えば、「ペスト流行により、ルネサンスという文化運動がおこり、資本主義も芽生えた」「コレラ流行により、上下水道の整備が進んだ」等

今回のコロナウイルス感染で社会がどう変わっていくか注視し、自分の考えをしつかり持ってみんなと連帯していく必要があります。そのためにも、いろいろな分野で学び続け、多方面からの情報を取り入れ、考えて行動していかなくてはなりません。

デマがSNSで拡散。差別的な行動、弱い人に攻撃的な態度をとる人。コロナ詐欺が起きている今。「人間とは」「人の生き方とは」・・・教育が今こそ必要な時です。

今、メディアでは、コロナを重点的に報道し、その他の報道は少ないです。

3月31日に「高年法」（高年齢者雇用安定法）が成立したそうです。詳しいことはよく分からないのですが、高齢者の雇用を安定させる法律のようです。労働者の全世代でのフーリランシ化が懸念されるそうです。

また、検察官の定年を63歳から65歳に引き上げる検察庁法改定案（年末には、司法の人事にまで官邸が口出しできるようにになると国会でもメディアでも問題にしていま

が）、年金制度改革関連法案（公的年金の受け取り開始時期を75歳に広げることなどの案）等、国会で審議入りしたそうです。

テレビでの国会中継の回数が少なく、メディアでの報道が頼りになるところですが、コロナの報道に多くの時間が費やされ、こういった報道は扱いが小さくなっています。私たちの生活に大きく関わることで、本来なら十分に時間をかけて報道されていたのだらうと思うのですけれども。（メディアの姿勢が問われるところですが）

また、たまに報道されますが、河井案里参議院議員選挙陣営による公職選挙法違反（買収）事件。地元広島なので、わりと報道されているような気はしますが、いつまでたっても本人は説明責任を果たされません。夫である克行氏は元法務大臣であるのに。

「森友学園」への国有地売却で、公文書改ざんを強要され命を絶った赤木俊夫さんの妻が夫の手記を公表し、国と佐川氏に対して損害賠償請求訴訟を起こしました。3月頃は、メディアもこれを取り上げて報道していましたが、この先の動向をこれからも見守っていかなくてはなりません。真相解明要求の声が多く必要です。

沖縄の基地問題も気になるところです。防衛省は、3月21日に辺野古の設計変更を沖縄県に申請したそうです。埋め立て予定の海底が軟弱地盤と分かり工事が進められないという報道は以前からされているところですが、その設計変更を

して推し進めたいと国は考えているようです。これから先何年かかるかわからない工事は、普天間基地の維持にもつながり、予想を上回る巨額の税金がつぎこまれることになりまゝす。大体、あの場所の軟弱地盤の状態から基地敷設は無理という声もあります。3月下旬、米軍普天間飛行場から発がん性の疑われる泡消火剤が流出した問題で、県などが成分を調査するために土壌の提供を求めたけれども、米軍は応じなかったといゝまゝす。米軍との間で何か起きる度に繰り返されていることゝです。

最後に、私たちは消費税や年金の話はよくしゝまゝすが、国や県の予算案の内訳の話をすることは少ないです。私たちの税金がどのように使われているのかきちんとみていくべきです。国は、税金の収支決算を子どもにもわかるような文や絵や図で表し、各家庭（国民全員）に文書配付で示すべきだと思ゝまゝす（子どもからも消費税をとっているのですから）。なお、今年度の予算に、コロナ対策の費用は見込まれてゝまゝせんでした。

新型コロナウイルス緊急経済対策としての補正予算案が通りまゝしたが、多額の「G O T O キャンペーン」など、今必要ですかというものがあります。苦しい時だから、感染が収まゝったときの夢を持つて欲しいとの予算だそうゝです。が、今、今日の食費にも困る、家賃が払えない、光熱費はど

うしようゝと困つてゝいて、倒産、廃業（自殺者もでかねない）。その後にくる夢つてなんだろう・・。今を失つての未来はなゝいであろうと思ゝうのですが（今の状態へお金を使つて欲しい）。弱者に思ゝいを馳せる、誰一人として不安に陥らなゝいような政治を行う想像力の豊かな政治家が多いと安心なゝのですけれども。

改めて、私たちは、主体的な主権者を育てる教育をしてゝいかなければならないと思ゝいます。

2020年5月1日 記

## 突然の別れ

広島サークル 佐々木智治

二月二八日金曜日、学校で「どうも三月三日火曜日から二五日まで、休業になりそうだ。」という話が伝わつてきた。広島市もつゝいにかと思ゝいながら、まゝどこかでこの措置は一時的なもので、二週間ぐらゝいすれば再び登校できるのではないかという空気が漂つてゝいたし、自分自身もそう思つてゝいた。いや、そうあつてほしいと願つてゝいた。なぜなら、私は三月限りで定年を迎えるからだつた。「こんな形で最後の年を終わりたくなゝい、子どもたちにかちんと教えることを教ゝえてから別れがしたい。」

そんな思ゝいで迎ゝえた三月二日月曜日、休み中のニュースで

休業のことを知った子どもたちだったが、二年生にはまだどこかぴんと来ないものがあつたようだった。この日は、四校時で授業は打ち切りとなり、給食後下校となった。子どもたちとお別れをする余裕もなく、進めなければならぬ授業をしたり、子どもたちがいつも楽しみにしていた毎月のお誕生日会（三月）をしたり、休み中の課題や過ごし方を説明したりするうちに、あつという間に授業は終わった。給食中も、持ち帰る荷物と学校においておくものを確認しながらで、ゆつくりと食べる間もなかった。

そしていよいよ帰りの会。挨拶の前に一言、「みんなと過ごした二年間は本当に楽しかったよ。三年生になったら、新しい先生と新しい仲間と一緒に、がんばってね。」という、いよいよ最後になるかもしれないという思いが、子どもたちの表情から伝わってきた。挨拶をしたらいつものように、じやんけんをしてハイタッチをして一人一人を見送るのだが、この日は感染予防のためハイタッチは自粛して、帽子の上から頭をなでながらお別れをするのがやっとだった。

そのまま三月は過ぎ、私は退職した。三八年間の最後がこんな形で終わってしまい、なんとも無念だった。しかし幸いなことに、再任用で同じ学校に勤務することになった。学年は違うけれどまたあの子たちと会える喜びに、少し気持ちは安らいだ。そして、三月まで一緒に二年生を担任していた若い二人から、思いもよらぬサプライズがあつた。それは、担任していた子どもたちからの手紙だった。隣の二クラスの子

どもたちも書いてくれていた。二人にお礼を言うや否や、「あの忙しいときに、いつ準備したの？」と思わず聞いた。「先生が教室にいな時間を見つけるのが大変だったんですから。」二人は笑っていた。自分のクラスのこととで精一杯だったろうに。

家に帰って手紙をゆつくりと読み、一人一人の顔が思い浮かび、至福の時を過ごすことができた。その手紙の中にこんなことが書いてあつた。

「先生、わたしは、先生がこの学校にいらなくなっても、わたしはもう、先生にえがおとゆうきとそうぞうりよくをもらったので、だいじょうぶです。」

その時、私ははつとした。そうだ、こんな時期だからこそ、「笑顔と勇氣と想像力」を失わないようにしよう。教え子に教わるということは、最高の喜びである。

## 今、私にできること

佐賀文芸研唐津サークル 川口 芹奈

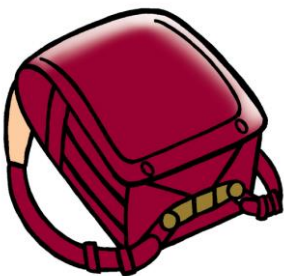
昨年末より、未知のウィルスの流行により、子どもたちはじめ、学校・社会・世界が今までに経験をしたことのない事態に直面しています。多くの人が苦しんでいる今、一刻も早い終息を願います。そして最前線で戦っているすべての方に感謝をしています。

私たちが、毎日学校に通い、教室に行く友達がい、みんなが集まり考えや価値を深めることができる。『当たり前』が奪われました。そして、見えない脅威に奪われて初めて『当たり前』がどれだけ幸せなことだったかを痛感しました。

私は、6年生を担任していました。初めて自分で指導案を書き、唐津のサークルや福岡サークルの先生方に見ていただき、子どもたちと「海のいのち」の学習をできることを楽しみにしていました。はじめの感想を交流し、3時間授業を進めたところで、突然休校が決まりました。この子どもたちが海の命をどう読みどう考えるのか知ることができず、また、一緒に学ぶ時間が無くなり本当に残念でした。佐賀県は休校要請期間の3日～3月12日まで感染者は確認されず、再開予定の16日を心待ちにしていました。私の勤めている学校では、17日（火）が卒業式で、そのため、16日はとても貴重な1日でした。ですが、13日（金）の夕方、ニュースで県内初の感染者が出て、16日の再開が難しいことを知りました。卒業式は短縮した形で行われることが決定していました。毎年、授与の際に、壇上で子どもたちが自分の夢や目標を言います。その言葉もカットする予定でしたが、16日も失われ、せめて子どもたちの出番を増やそうということになり、急遽卒業生の壇上の言葉を本番で行うことになりました。6年生の児童と保護者だけの登校で17日の卒業式を迎えました。卒業式当日、礼装をした子どもたちが嬉しそうに誇らしそうに教室で笑っている姿を見て胸が熱くなりました。

た。そして、壇上での言葉を言うことができる伝えると、初めは、驚いていていた子どもたちでしたが、すぐに言葉の練習を始めました。「言えないときは、紙を見て小さな声でも大丈夫だよ」と伝えましたが、本番は、誰一人紙を見ず前を見て大きな声で、自分の言葉で思いを伝えることができました。私が思っているより何倍も子どもたちは逞しく、子どもたちの持つ可能性・力を感じ、今いる環境の中で負けずに前を見て頑張ろうとする姿に感動しました。

子どもたちが今から生きる未来は、このような答えのないたくさん課題に立ち向かわなくてはならない未来だと思っています。子どもたちの持つ可能性の大きさを感じることができた卒業式でした。ですが、休校延長により、そんな子どもたちの成長するチャンスが失われています。なので、私たち現場にしかできないことを考え、工夫し子どもたちと乗り越えていきたいと思っています。佐賀は、2週間新学期を迎えることができました。新学期になっても始業式・入学式を迎えられず、まだ新しい友達と学習できていない地域の方々を思うと胸が痛みます。みんなで力を合わせ、この難局を乗り切っていきたいです。この期間に、子どもたちの考えで深めることができる文芸研の理論を学び、1日でも早く子どもたちと学習できることを楽しみにしています。



## コロナ感染にともなう鹿児島県の状況

北山 文代（かごしま文芸研）

三月の突然すぎるアベノ休校宣言。そして四月の非常事態宣言で鹿児島県でも休校になりました。三月の休校時は、かなり混乱しました。その時期、県内で確認されてる感染者がいなかったからです。「全国一斉休校・なぜ鹿児島も？」「急すぎる」という声があちこちから聞かれました。休校対応のため、自習にして臨時職員会議や準備が行われたり、課題作成のために土日に出勤した学校もありました。お別れ遠足や卒業式などの行事も中止や縮小で子どもたちに辛い思いをさせることになったのは、どこも同じだったのではないでしようか。

休校によって大きな課題となったのは、仕事を休めない家庭の子どもたちをどうしたらいいかということでした。学校によっては、自習室を作って開放したり、学校での自学を認め、学習に来た子どもたちを職員が交代で見守るようにしていました。しかし、場所によっては百人をこえる子どもたちが集まってしまい、その対応が難しくなる状況がありました。児童クラブも新たに入所した子どもで数が多くなり、職員は3密を作らないための対策が精神的な負担になって「とても大変です。」と漏らされていました。感染拡大防止のために休校措置がとられたのに、感染拡大のリスクが新たに作

られる状況が生まれてしまっています。この状況をどうしたらいいのかいまだ解決策はみつかりません。

学習についてもオンライン授業等の対応がいわれていますが、鹿児島県では学習に使えるIT機器を持つ家庭はまだまだ少ないといえます。学校から貸し出すにも台数がたりません。整備が全く整っていないのが実情です。

そして何より気になるのが、感染した人に対する嫌がらせや差別発言、その家族への誹謗中傷です。これは私たちの意識や価値観の問題も大きいのでしようが、それを生み出してしまう土壌の一つに行政の関わり方があるのではないかと思うことがあります。

四月、新学期の開始時期と重なって鹿児島県のある小さな島で感染者が出ました。教育委員会は休校措置を継続せず学校を再開しました。そこで起こったのが登校拒否です。感染者には小中学校に通う家族や親戚がいました。その人たちを濃厚接触者として感染を恐れた学校の保護者たちが「感染者の家族や親戚のいる学校へは行かせられない」と登校を拒否したのです。鹿児島県は県内に数多くの島があります。島の人たちは日頃から結びつきが強くお互いのことをよく知っています。だから感染者の情報は良くも悪くもすぐに広がってしまふのです。この時、教育委員会が、家族の人たちが感染しているかどうかはつきりするまで休校措置継続の判断をしていればあるいはこの事態は防げたことだったのではないかとされています。

今（四月三十日現在）、学校職員の勤務を巡って、教育委員会や管理職の意識を疑いたくなるような事態が起こっています。四月二十一日に教育委員会は「コロナウイルス感染の蔓延防止のため」として時間差通勤や在宅勤務の方針を出しました。でもそれは表向きだけで、在宅勤務を要求しても「鹿児島では蔓延していない」という理由でとれなかったり、在宅勤務が可能になる条件（時間差出勤がどうしてもできない人、基礎疾患がある人、罹患した人）をつけたりして、方針とは逆に在宅勤務をさせない状況になっています。

無責任で危機感と想像力のない鹿児島県教育界の一面が表れています。

最後に、かごしまサークルでは、今年、毎年続けてきた「夏の教材研究会」を中止にしました。その分、今年是新教材の学習をしよう！・・・と語りあっているところです。定例会はコロナの状況次第ですが、つながりは切れないように連絡し合いながらこの状況を乗り切っていこうと思っています。

## 事務局通信

○緊急事態宣言が延長され、各地で状況は違うと思います。が、それぞれの現場で子どもたちのためにと苦闘されていることと思います。各地での情報交換をしながら、今できることを皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

この機会に、レポートのデータ化、また、遠隔地でつな

がることでのサークル開催、文芸研の部会の充実など、今までできなかったことに取り組んでいきたいと思っています。教材研究を一緒にすれば、やはり、国語の分析の仕方、解釈、発問、授業づくりに若手の先生方を中心にみなさん困っています。西郷理論がある文芸研は、今後とも必ず必要とされてきます。

お願いです。近隣サークルとも協力しながら、サークル活動を工夫して行っていたき、サークル員の学びをつくっていきましょう。サークル員が学び続けることが運動の大きな柱です。全国大会が1年延期したことで、運動の柱である大会が今年度は開けません。新しいサークル員を増やしていくためにも、声かけ、学習、運動の可能性の追求をお願いします。

○文芸教育誌の活用、紹介をお願いします。文芸教育を使ってサークルでの学習、また同じ学校、学年、知り合いへの紹介をお願いしています。全サークル協力のもと、より実践的で手に取ってもらい、学びになるものと力を合わせて文芸教育誌を作っています。サークル員が手売りしていくのが確実な方法です。ぜひ、知恵を絞っていただき、活用をお願いします。

また、新読書社にはお世話になっています。支払いの方を速やかにおこなっていただけるように今一度ご協力お願いします。